

【2次評価】評価点一覧

氏名 評価項目		1. 町田市環境マネジメントシステムに対する評価					2. システム運用状況に対する評価				
		システム全体	計画	実施	点検	見直し	温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	廃棄物 紙資源 グリーン購入	エコオフィス 活動（共通の 取り組み）	エコオフィス 活動（施設を 管理する部署 の取り組み）	内部監査
		評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点
松波 淳也	5	5	4	5	4	3	2	4	5	3	
奥 真美	4	4	3	3	4	4	3	5	4	4	
斉藤 崇	4	4	3	4	4	3	2	4	4	4	
澤井 宏行	4	5	3	4	5	4	4	5	5	5	
須永 文雄	4	4	3	5	3	4	3	4	3	3	
斎藤 之良	4	4	3	4	3	3	4	4	4	5	
越智 尊恒	5	4	3	5	4	3	4	4	4	4	
多久島 俊昭	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	
小池 紀子	4	4	4	5	4	2	3	4	4	4	
菓澤 則子	5	4	3	4	4	3	3	4	4	4	
大橋 とも子	5	4	3	4	4	3	3	4	4	4	
平均点	4.5	4.3	3.4	4.4	4.0	3.3	3.2	4.2	4.1	4.0	
最高点	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5	
最低点	4	4	3	3	3	2	2	4	3	3	

1. 町田市環境マネジメントシステムに対する評価

評価項目		第2次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
システム全体	・対象範囲 ・運用スケジュール	4.5	<p>(松波委員) 市のEMSとして先進的なシステムであると評価できる。</p> <p>(奥委員) ○2017年度内部環境監査結果報告書(資料3)において、定期監査の結果が不適合となった事案が12件あり、そのほとんどが産業廃棄物保管場所の掲示の不備またはマニフェスト伝票の管理を含む廃棄物処理手続きに係る対応不備/理解不足といった法令遵守が危ぶまれるものであった。遵法性は、環境マネジメントシステムのなかでも基本中の基本で、必ず確保されなければならないことである。各課・施設において環境関連法令一覧を整えておき、遵法状況を定期的に確認する体制が必要である。</p> <p>○町田市環境マネジメントシステムマニュアル【第4版】(参考資料1)では、指定管理施設の位置づけや役割が不明確である。</p> <p>(斎藤(崇)委員) 全体としては、PDCAサイクルを通じて継続的改善に取り組む形で良いと考える。法令遵守に関するものも含まれてくるとさらに良いものになるだろう。</p> <p>(澤井委員) 全体論として、取組むべき事をしっかりと実践していると思います。システムが変わって数年が経過しています。形骸化しないように意識改革を続けられる事を望みます。</p> <p>(須永委員) 制度としての環境マネジメントシステムを確立しており、また外部評価システムもしっかりしているように感じられる。市立学校を含む市の全施設、全教職員を網羅して実施していることも取組みとして素晴らしいと感じる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 活動が定着しつつあり概ね評価できる。</p> <p>(小池委員) ・対象範囲に指定管理施設を含めたことに対して、高く評価できるのではないかと思う。</p> <p>(葉澤委員) システムが確立されており続けていくことが大切だと思います。</p> <p>(大橋委員) 市の全施設(室内プール、体育館など指定管理施設を含む)、市の全職員を対象としていて、継続的改善がされているところが評価できる。</p>	5	4
計画	・取組内容	4.3	<p>(松波委員) 市として取り組むべき環境マネジメントとして妥当な内容であると評価できる。</p> <p>(奥委員) ○温室効果ガス排出量は排出係数に左右されることから、取組みの効果を直接把握できるエネルギー使用量をベースにした目標を部局ごとに設定するとしているのは良い。</p> <p>○14頁の施設改修・設備更新の記述では一般的な主な取組みを列挙しているものの、どのタイミングでいかなる施設・設備の改修・更新を図る必要があるのかを見極めたうえで、施設等更新計画を策定し、予算措置を講じていくことなくしては、実際には取組みは進まない。8頁に記載の「町田市省エネ対策会議」を通じた検討が、いつまでどのような形で結実していくことになるのかを明確にしたうえで、施設等更新計画も合わせて明らかにしていくことが求められる。</p> <p>(斎藤(崇)委員) エコオフィス活動について、個々の取組みも重要であるが、部単位での取組みなどについてもあった方が良いように思う。</p> <p>(須永委員) 第3次実行計画を推進するなかで、課題を抽出し改定方針を設定し、第4次実行計画に反映するなど、5ヵ年計画においてもPDCAサイクルを意識している点は評価できる。</p> <p>一方で、2021年度の排出量目標を2015年度比で6%以上削減するという目標と国の「地球温暖化対策計画」との関係性を明記しておくとうよと思われる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 概ね評価できるが、より精査して効率的に改善に取り組んでほしい。日頃の啓蒙、積み重ねは重要であるが、日常的なプロジェクターやモニターの積極利用や遠隔会議の実施など、行政業務全体の効率化のなかで省資源化を進める可能性も検討すべきである。</p> <p>(葉澤委員) 取組みは評価できる。個々でどう考えるかが重要。</p> <p>(大橋委員) 各課、各施設における取組み例や内容は概ね評価できるが、各職員などの意見を聞き、取組み例の項目を見直したり、増やしたりして更なる目標達成に近づけていくことが望ましい。</p>	5	4

1. 町田市環境マネジメントシステムに対する評価

実施	職員教育 運用方法	3.4	<p>(松波委員) 集合研修、学校以外のe-ラーニング研修は出席率は高く評価できるが、学校のe-ラーニング研修の受講率が悪化しており、改善策が必要である。</p> <p>(奥委員) ○e-ラーニング研修の実施時期や方法について、いまだ改善の余地がある。 ○PDCAを回した後に、その成果を環境白書やホームページで広く公表していることは評価できるものの、市民等からの反応は皆無であるという状況は非常に残念である。市民等からの意見や感想を得られやすくなるような工夫が、公表方法も含めて、求められる。</p> <p>(斎藤(崇)委員) 優良事例について、研修資料や庁内掲示板などで情報共有されている点は良いと思う。</p> <p>(須永委員) 集合研修の出席者が2016年度と比較して増加している点は評価できる。一方、e-ラーニング研修において学校教職員の受講者が大幅に低下している点が残念である。教員については、市職員ではないことや、業務が特殊であることを踏まえ、教員を除いた受講者数を併せて記載しておくことが望ましい。</p> <p>(斎藤(之)委員) 教員の参加率が低下しているが、業務の繁忙度合いなども含めた検討・改善を求めたい。</p> <p>(越智委員) 弊害があり、高水準での教育は難ありと思われる。</p> <p>(小池委員) ・集合研修やe-ラーニング研修について、職場環境や職種を考慮に入れ、より受講しやすい期間や方法などについて柔軟に対処することで、ボトムアップをはかれるのではないだろうか。</p> <p>(葉澤委員) e-ラーニングなど研修システムは出来ているので必ず受けられるシステムを。</p> <p>(大橋委員) 新任管理職及び環境推進員、庁舎管理責任者の集合研修においては出席率も年々増加している。一方、全職員対象のe-ラーニング研修は学校職員の実施率が2017年度は前年に比べて10%も減っているの で、回数を増やすなどして出席率を増やすようにすべきである。</p>	5	3
点検	日常点検 内部監査 手法	4.4	<p>(松波委員) 定期監査、フォローアップ監査と市のEMSとして先進的なものであると評価できる。</p> <p>(奥委員) ○法令遵守状況を内部監査員が監査するにあたっては、監査員が事前に対象部局や施設に係る関連環境法令の内容を熟知しておく必要がある。今回は廃棄物処理法における産業廃棄物の取扱い等を重点的に監査がなされたようであるが、それ以外にも注意して遵守状況を監査すべき法令は部局・施設ごとに異なるものがあるはずであるし、また、フロン排出抑制法のようにすべての部局・施設に共通して確認すべきものもあるはずである。的確な違法性確認をするうえで、各部局・施設において法令一覧を作成し、それをベースに定期的な確認と監査がなされる必要がある。</p> <p>(斎藤(崇)委員) 内部環境監査で「不適合」とされたものについて、可及的速やかに是正措置がとられているということだが、そうであればフォローアップ監査も1月よりも早い時期におこなっても良いように感じる。</p> <p>(須永委員) 監査員を一般の課から選出することは、一般職員のEMSに対する関心と理解を深められるいい取組みだと感じた。また監査員が1年ごとに入れ替わり、多くの職員が環境内部監査の機会に触れることを通じて、多くの職員が環境への意識向上を図ることにつながると思われる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 仕組みが適切に運用されフォローUPまで完成している。</p> <p>(小池委員) ・日常点検が継続的に行われることは評価できると思う。</p> <p>(葉澤委員) フォローアップ監査の実施など評価できる。</p> <p>(大橋委員) 内部監査についての改善事項、不適合についてはフォローアップ監査を実施し、改善方針に従って適切な是正措置が完了していることは概ね評価できる。</p>	5	3

1. 町田市環境マネジメントシステムに対する評価

見直し	外部評価 市長見直し 情報開示	<p>4.0</p> <p>(松波委員) 情報開示について、今少しの改善(市のホームページの深い階層にあっても市民は見つけにくい)が望まれる。 (奥委員) OPDCAを回した後に、その成果を環境白書やホームページで広く公表していることは評価できるものの、市民等からの反応は皆無であるという状況は非常に残念である。市民等からの意見や感想を得られやすくするような工夫が、公表方法も含めて、求められる。 (斉藤(崇)委員) 市長総括を下半期のe-learningの研修や次年度のEMS研修に生かしている点は評価できる。 (須永委員) 環境マネジメントシステムで定められたとおりに実施しており、問題ないと考える。ただし、情報開示において、より多くの市民に閲覧してもらえるよう、広報によるPR等を行っているとともに良いと思われる。 (斎藤(之)委員) 適切に履行されている。情報開示についてはHPを充実してより積極的に周知すること。HPに関しては市民が関心を寄せ、納得できるコンテンツを提示しているか検証が必要。 (小池委員) ・外部評価意見に対して、対応状況は評価できる。 ・情報開示について、HPの改修は多少必要かもしれない。しかし、市民の意見の書き込みがないことはそれほど気にすることではないと思う。 (葉澤委員) ホームページでの開示方法の再考を。 (大橋委員) 外部評価委員による環境パフォーマンス、環境活動状況の評価は、町田独自で透明性が高いことは評価できる。情報開示については改善が望まれる。</p>	5	3
-----	-----------------------	--	---	---

2. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		第2次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	目標達成状況 経年変化状況	3.3	<p>(奥委員) ○排出量の増減の理由を正確に伝えるためには、電力供給事業者の変更およびそれともなう排出係数の変化についても説明がなされる必要がある。 (斉藤(崇)委員) CO2はトータルで減少しているが、部門によっては増えているところもあり、さらなる取り組みが必要だと考える。 (須永委員) 温室効果ガス総排出量については概ね目標どおり減少しており評価できる。市庁舎において排出量が増加している状況を確認したが、これは電力会社の排出係数が軒並み増えたために発生したと確認できた。 (斎藤(之)委員) 排出係数と調達コストについては決定プロセスを明示し増減の理由を明確に提示すること。 (小池委員) ・P4の棒グラフから、このままでいくと2021年度の目標に達することはかなり難しそうである。 (葉澤委員) 目標達成に向けて少しずつでも努力を。 (大橋委員) 温室効果ガス、エネルギーの削減は努力により効果が上がっている。エネルギーは全体として減っているものの市長部局その他や小中学校で電気、都市ガス等の増については考えていかなければならない。</p>	4	2
廃棄物・紙資源・グリーン購入	経年変化状況	3.2	<p>(奥委員) ○一廃と産廃の別(特管か否かの別も含む)、廃棄物の組成に関する情報を含めた経年変化の状況のデータを整備していくなかで、改善の余地がどこにあるのかを見極めていく努力が求められる。 (斉藤(崇)委員) 廃棄物の排出量は減少しているものの、紙の購入量が増えてしまっている。小中学校で学習に必要な紙についてはやむを得ないところもあると思うが、そのぶん他のところで工夫できるのではないかと思う。 (須永委員) 第4次行動計画において掲げられている、市庁舎複合機出力枚数の削減目標(△13%)はすでに達成している点は評価できる。一方、廃棄物排出量、再利用率、紙購入量等についても、目標を設定(もしくは計画上に明記)し、その目標に向けた取組みを推進していただきたい。 (斎藤(之)委員) 計数管理が行き届いており進捗が明確である。学校の紙使用量などが引き続き目立つが、市庁舎複合機の削減も頭打ちであり、さらなる取り組みや工夫が望まれる。 (小池委員) ・グリーン購入については、昨年度から引き続き高いレベルを維持していくことは、限られた財政の中での取り組みを評価できる。 (葉澤委員) 学校におけるペーパーレスはメールの活用など出来ることから取り組む。グリーン購入は引き続き継続を。 (大橋委員) 2017年度の廃棄物排出量は2015年度及び2016年度と比較して1%減っている、小学校増設に伴う粗大ごみや公園の老朽化した物品での増加が見られるが、これらはこれからも増加すると思われるので対策が必要。小中学校の紙購入量は増えている。原因を細かく検証し、他の市町村で成果をあげている学校の取り組み事例を共有することが望ましい。2017年度のグリーン購入は、95%以上の高い達成率をあげている。非適合物品購入時は、理由を明確にし、次年度以降に繋げていくことが望ましい。</p>	4	2

2. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		第2次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
エコオフィス活動（共通の取り組み）	各職場における活動状況評価	4.2	<p>(奥委員) ○かなりやりつくした感があり、今後は施設更新／再編によって計画的な対応を図っていくことが求められる。</p> <p>(斉藤(崇)委員) 概ね良いと思う。</p> <p>(須永委員) 概ね高い水準であり、各職場においてエコオフィス活動を意識した活動をしていると評価できる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 評価の低い部門について、それが業務内容等のやむを得ない理由がある場合はその旨を特記し、改善の方法を要望・提案できることが望ましい。</p> <p>(葉澤委員) 個々での実施状況など評価できる。</p> <p>(大橋委員) 具体的な取り組みや工夫がなされている。</p>	5	4
(施設を管理する部署の活動取り組み)		4.1	<p>(奥委員) ○かなりやりつくした感があり、今後は施設更新／再編によって計画的な対応を図っていくことが求められる。</p> <p>(斉藤(崇)委員) 概ね良い状況にあると思う。</p> <p>(須永委員) 定期点検や日常運用について、概ね高い水準で運用しており、各職場においてエコオフィス活動を意識した活動をしていると評価できる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 概ね適切に活動されている。</p> <p>(小池委員) ・まだ、改善の余地はあるものの、利用者の配慮や予算等の制約がある中での活動は評価できる。</p> <p>(葉澤委員) 施設の利用状況にもよるが評価できる。</p> <p>(大橋委員) 市が所有する施設の省エネ・省資源の取り組み(設備の適正管理の実施状況)について、エコオフィスチェックシートで(×:未実施)の評価項目は、なぜそうなのか聞き取り、改善できるところは改善していく必要がある。</p>	5	3

2. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		第2次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
内部監査	監査内容 監査結果 是正対応	4.0	<p>(松波委員) 不適合発生が、学校で目立っている。改善策が必要である。 (奥委員) ○2017年度内部環境監査結果報告書(資料3)において、定期監査の結果が不適合となった事案が12件あり、そのほとんどが産業廃棄物保管場所の掲示の不備またはマニフェスト伝票の管理を含む廃棄物処理手続きに係る対応不備／理解不足といった法令遵守が危ぶまれるものであった。こうした事案が内部監査において検知された場合には、監査対象ではない課・施設も含めて直ちに全庁的に不適合指摘内容の共有ならびに法令遵守状況の確認を図る仕組みを整えておく必要がある。</p> <p>(齊藤(崇)委員) 内部監査で「不適合」とされたものについて、速やかに是正措置がとられている点は良い。そうであれば、フォローアップ監査を半年後(1月)よりも早い時期に実施しても良いと感じた。 (須永委員) 改善事項や不適合が散見されており、是正が必要と思われる。特に不適合については、法令に抵触しているものもあったため、早急な是正が必要と思われる。</p> <p>(斎藤(之)委員) 適切に実施されていると判断できる。</p> <p>(小池委員) ・定期監査とフォローアップ監査で、かなりの改善が行われていることが、確認できる。</p> <p>(葉澤委員) フォローアップ研修により改善も見られるので評価できる。</p> <p>(大橋委員) 例年内部監査の内容が変わっていないのであれば、項目の見直しも必要である。監査結果で優良な独自の取り組みの被監査課を紹介し、他でも取り込めるところは取り込むよう促す。産業廃棄物保管場所の掲示板や、囲いの設置の不適合の是正については法令順守の範囲なので徹底が必要である。</p>	5	3